

第2回 兵庫便教会 報告

2014年10月18日(土)、第2回の兵庫便教会を、芦屋市立精道小学校で開催することができました。清々しい空気の漂う、気持ちのよい天候のもと、17名で活動しました。

簡単な自己紹介のあと、1Fの男女トイレに分かれて、トイレ掃除の実践をしました。最初の道具説明では、綺麗にするという掃除の目的に目が行き、時には道具を粗末に扱い、道具やトイレ自体を傷つけていないか、それは子どもとの関係にもつながるものがあるのではないかというお話しをしていただきました。

時間のなかでしたが、便器磨きと水を流すことのできない床での掃除の仕方を教えていただきました。見違えるほど美しくなったトイレに感動する声が多く聞かれました。

次に、大谷先生から教室掃除のやり方も教えていただきました。全員が子どもとなって、役割分担をし、実際にやってみました。およそ8分で掃き掃除、床拭き、机の整頓まで終わることができました。流れるような動きの中で、話をしたり、別のことをしたりする余裕はありません。まさにチームとして掃除をしている実感が持てました。

最後に今日の感想を交流しました。初めて参加された方、何回か経験をされた方、それぞれに学びがあったようです。それぞれの学びを交流することによって、更に学びが深くなりました。



教師は how to に走ってしまうことがあります。教科指導や学級指導、クラブ指導を始め、実にたくさんのことを「教育」と称して実践しているのが教師です。「やり方」を習得したいという思いもわからなくはありません。しかし、「やり方」よりも教師としての「在り方」に教育としての力があるのだと思います。今回の便教会で、「やり方」の習得とともに、「在り方」についても考えを深めることができたのなら、これ以上、嬉しいことはありません。

会場として使わせていただいたクラスの担任の先生は、子どもたちから、掃除のやり方を聞いて、自分たちに伝えてほしいという宿題をもらっていました。子どもたちに伝えるために、ポイントをホワイトボードに書き入れる作業をしていた姿が心に残りました。月曜日に、伝える先生とそれを聞く子どもたちの輝く瞳を見てみたいと思いました。今回も多くの方々に支えていただき、本当にありがとうございました。

(文責：木田重果)

